

小田原市地域コミュニティ検討委員会（平成 22 年度第 5 回会議）議事録

日 時 平成 22 年 9 月 22 日（水） 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分

会 場 小田原市役所 6 階 601 会議室

出席者 委員

名和田是彦（委員長）、石川信雄（副委員長）、金井俊典、近藤忠
酒匂守、下田勝也、鈴木敦子、田村洋一、菰山信、橋本輝夫

コミュニティ政策庁内プロジェクトメンバー

リーダー・杉山博之（職員課長）

サブリーダー・湯川寛（ケアタウン担当課長）

村田智俊（企画政策課上級主査）、関嘉也（行政改革推進課担当主査）

一寸木孝幸（暮らし安全課担当主査）、藤澤隆則（環境政策課長補佐）

尾沢昌裕（青少年課主幹・担当主査）

事務局

諸星正美（市民部次長）、山崎文明（地域政策課長）

中津川英二（地域政策課長補佐）、府川悟志（地域政策担当主査）

藤井純（地域政策課主事）

傍聴者 1 名

会議内容

開会

事務局 （地域政策課）：	開会 〈資料確認〉 では、名和田委員長に進行をお願いしたい。
名和田委員長：	はじめに、この検討委員会は、公開することとなっている。 また、この会議の会議録は、公開することとなっているので、 ご承知置きいただきたい。

議題 1 最終報告書（案）について

名和田委員長：	本日は、最終報告書（案）について概ねの了承をいただき、 微修正については、委員長一任していただけたところまで精 度を高めたいので、ご協力をお願いします。 最終報告書（案）は、前回会議と本日までの間に委員へ意 見照会を行い、いただいた御意見と今までの議論をもとに事 務局が修正を行ったものである。修正箇所については、アン ダーラインで明示されている。 本日の進め方として、修正箇所について事務局へ説明をお 願いし、その後議論したいと思う。
---------	--

	<p>議論の進め方だが、前回会議の中心であった第1章について、まずはご議論いただき、その後、第2～4章についてまとめて議論していきたいと思う。</p> <p>また、私のお願い事だが、本日で委員会は終了なので、最後に委員から一巡、感想をいただきたいと思う。およそ、2年間にわたりこの委員会の委員長を仰せ遣い、勉強させていただいた。最後、小田原市民としてこの委員会へ参加された方々がどんな思いでいらっしゃるかをぜひ知りたいと思い、お願いしたい。</p> <p>それでは、事務局より説明をお願いします。</p>
	<p><事務局より修正箇所についての説明></p>
名和田委員長：	<p>では、まず第1章についてご議論をお願いします。</p> <p>第1章は、当初、世帯構成の変化や自治会の加入率のグラフが最初に構成されていたが、前回会議の議論を踏まえ、以前委員会で抽出した課題を最初に構成したことにより、小田原の地域に足が着いた書き出しになったと個人的には感じている。</p> <p>他の委員において、お気づきの点があったら発言をお願いします。</p>
金井委員：	<p>第1章の現状の問題点の3行目に使われている「輻輳」だが、一般の方には難しく感じる言葉ではないのだろうか。</p>
名和田委員：	<p>語句の変更は、比較的容易だと思うので、多くの委員が戸惑われたというのなら、市民の方も戸惑うことが考えるので易しい言葉へ変更したほうが良い。</p>
橋本委員：	<p>この「輻輳」という言葉が無くとも、「様々な問題」とあり、複数で色々集まっていることは表現できているので、「輻輳」をわざわざ入れなくても良いのではないか。</p>
名和田委員長：	<p>皆さんも同様のようなので、「輻輳」という言葉は削除でよろしいか。事務局はどのような意味で「輻輳」という言葉を使ったのか。「様々な」とは違う「複雑な構造」という意味合いを出したかったのか。</p>
事務局：	<p>そうである。「複雑に絡み合っている」というニュアンスを出したかった。</p>
名和田委員長：	<p>「解決の難しい様々な」でもそのような意味は伝わるのではないか。読みやすさも重要になってくるので、「輻輳」という言葉は削除する。</p> <p>他にはいかがか。</p>
下田委員：	<p>白いひし形で示されている4つ目の課題に「セキュリティ</p>

	<p>の高いマンションに住みたい需要も高く、これにより近隣住民の顔が見えにくくなってきている。」とあるが、この表現だと近隣住民の顔が見えにくくなっているのは、セキュリティの高いマンションに住みたいことだけに捉えられてしまうのではないか。確かに、マンションではそのような問題があるが、一戸建ての人でも、周囲とコミュニケーションが取れないケースが増えているというのも現実である。</p> <p>私が経験した例を挙げると、ある一軒家に最初訪問したときは、「手が離せないから出られません。」と玄関に出てきてくれない。二度目に訪問したら、また「手が離せないので出られません。」とまた出てこない。三度目に行くと、「何の御用でしょうか。」と返事があり、「敬老会の招待状をお持ちしたのですが。」と言うと、「ポストに入れておいて下さい。」とまた出てこない。この家は、まだ、顔も見たことがない。</p> <p>このような家庭が少しずつ増えてきているので、「セキュリティの高いマンション」も原因としては十分かもしれないが、それだけではないことも考えていただきたい。</p>
名和田委員長：	「これにより」の「これ」は、事務局の意図としては何を指しているのか。
事務局：	これは、結果としてセキュリティの高いマンションに住んでいる方々が大勢いるという状況を示したかった表現である。
名和田委員長：	確かにひとつは、この種のマンションの構造そのものが外部からシャットアウトする構造を持っている面と、もうひとつは、このような所に住み、地域とのつながりを避けたいという気持ちを持っているのも問題である。
下田委員：	先ほども発言したが、一戸建てに住む人々の中にもそういう人がいるということである。
名和田委員長：	そのような気持ちをもっているという意味を考えるならば、別にマンションに限らなくても良いと思う。
菰山委員：	周囲の人と接点を持ちたくないという人が増えていることが、文章から読み取ればよいのではないか。
名和田委員長：	そのあたりは事務局で工夫してもらえらると思うが、「地域との関係を避けようとする傾向も強まり、セキュリティの高いマンションに住みたいという需要も高く、これらにより、地域住民の顔が見えにくくなっている」などの文案が考えられる。
石川副委員長：	必ずしも避けようとしているわけではないと思う。

	<p>それが全ての原因ではないと思うが、そういうところから自治会の加入率がやや理想から離れているということもある。そういう人達がみんな入ってくれば、加入率も上がってくる。</p>
名和田委員長：	<p>避けようとしているといっても、本当はつながりが必要だということが理解される局面はあるので、「避けようとする」はやや不穏当な表現だと思う。他の委員において、良い修正案があったらお願いしたい。</p>
菰山委員：	<p>私のいままでの経験から言わせていただくと、現時点では地域の力を借りなくてもなんとかやっていけるので、煩わしく感じるのではないか。</p>
名和田委員長：	<p>今の御意見を聞いて、案が思いつきました。「地域との関わりを差し当たり煩わしいと感ずる住民も増えている」というのはどうか。</p>
鈴木委員：	<p>以前行った課題抽出から考えると、自分の生活スタイルやプライバシーを守りたいという気持ちが強かったり、生活時間帯が異なるため、隣近所と接点を持ちたいけれどなかなか持てないということもあるのではないか。</p>
名和田委員長：	<p>かつて、そのような議論もした。今の言葉を活かすなら、「自分の生活スタイルを守りたいために、地域との関わりを差し当たり煩わしいと感ずる」となるが、いかがか。</p>
酒匂委員：	<p>「地域とのつながりを持ちたくない」という単純な表現でも良いのではないか。</p>
近藤委員：	<p>言い方を換えると、「地域に暮らす人達とどのような関係を養うか」という表現ではどうか。</p>
酒匂委員：	<p>現実的には、地域とのつながりをもちたくない、煩わしいという感覚をお持ちの方がいる。</p>
橋本委員：	<p>さっきの「煩わしい」が一番よいのではないか。 そこで、「マンション」というのは削除したほうが良い。マンションだけの話ではなく、マンションと記述するとマンションだけが悪いという印象を与えてしまう。だから委員長が言われたとおりの「地域との関わりを煩わしいという人たちが増えている」で良いのではないか。</p>
名和田委員長：	<p>課題抽出を1年半くらい前に行ったときの経緯でマンションが出てきたのではないか。しかし、敢えて「セキュリティの高いマンション」と言わなくて良いというご意見が大勢である。 大分、材料が出てきたので事務局で修正し、委員長の私が</p>

	<p>確認をする。</p> <p>他にないかあるか。</p>
近藤委員：	<p>課題が4つ抽出されているが、これは中間報告で多数出した中の一部である。中間報告で出した抽出課題は、資料編という形で載せるのか。</p>
事務局：	<p>今、お手元にある形でまとめたいと考えている。中間報告は、最終的な報告書が提出されてしまっても、無くなってしまいうのではなく、あくまでも最終的な報告書にいたるステップとして残しておくべきものだと考えている。</p>
名和田委員長：	<p>最終報告と中間報告と一体のものという考え方から、資料編はないというのが今の考えのようだ。そのような取り扱いで構わないか。</p>
近藤委員：	<p>それでも構わない。そうすると、「以下のような具体的な課題」というのがこれだけだと捉えかねないので、多数抽出した課題の一部であるという記述をした方が良いのではないか。</p>
名和田委員長：	<p>では、中間報告が忘れ去られないよう「中間報告書の資料編を見よ」といった記述を入れれば良いのではないか。</p> <p>ほかに意見があるか。</p>
近藤委員：	<p>地域コミュニティの将来像のところだが、「これらの地域に求められることの第一は」とあるが、読んでいくと求められることが各種団体の連携であるとも読めてしまう。そうすると、見方によっては現在、各種団体に所属している人に、新たな足かせをかけるような事を最初に言ってしまうので、後ほどの負担をどうやって減らしていくかという所と噛み合っていないのではないか。</p> <p>ここでは、住民一人ひとりが担い手になることが必要となっていており、担い手が増えていくためには、各種団体の新たな連携からスタートするといったことが書かれるべきだと思うが、どう思うか。</p>
名和田委員長：	<p>現在、私はこのような新しいコミュニティの仕組みを始めようとしている自治体に出向き、勉強させていただいているが、小田原市のひとつの特徴は、諸団体の横の連携をつくることが大事だという思いが共通しているところにあると感じる。だから、それはひとつの重要な論点である。ただ各種団体の動きを制約しようとするものではなく、むしろ各種団体の動きを良くするための連携である。この辺に誤解が生じるような文言ではよろしくない。今、事務局から提示されてい</p>

	<p>る文章で、我々の想いが十分伝わっているなら良いと考えるが、いかがか。</p>
下田委員：	<p>今の近藤委員の意見についてだが、この文章は「これからの地域に求められることの第一は」というのがどこの冠になっているかという、「各種団体の新たな連携である」と考える。」であり、「第一は各種団体の新たな連携である」と考える。」とつながる。では、そのためにどのような事が必要であるか、まず把握する、共有する、そして行動する、という連携ができると考えた場合、私はそれほどこの文章について違和感がなかった。</p>
名和田委員長：	<p>具体的な連携のイメージが第二章以下展開されていることも考慮して、誤解のない表現であれば良いと思うので、このままでも差し支えないと思うがどうか。</p>
近藤委員：	<p>他の委員がよければ、良い。</p>
名和田委員長：	<p>他に近藤委員が提起された問題についてはいかがか。課題抽出の箇所、これで全てではなく、詳細は中間報告の資料編に載せてあることを示してもらえればありがたいと思うがいかがか。</p>
酒匂委員：	<p>第一章の四つの課題について、単に四つだけだと捉えられる恐れがあると感じた。そこで、「以下のような具体的な課題が抽出された」を「以下のような主な課題が抽出された」と修正してはどうか。</p>
名和田委員長：	<p>今の発言の意味からも、多く抽出された課題の中で主要ないくつかであることが分かる表現が必要だと思うので、そのように修正させていただく。</p> <p>では、第二章以降について同じように御意見をいただきたい。</p>
近藤委員：	<p>では、二点ほどお願いしたい。</p> <p>一点目は、中間報告では、頻繁に出てきた新たな担い手の創出について、書かれていないようだがどうか。</p>
名和田委員長：	<p>人材育成という論点から P16 で書かれている。この表現で、我々の気持ちが十分表現されていれば良いと思う。</p> <p>もう一点はどこか。</p>
近藤委員：	<p>P10（2）の「協議会の構成」の下部に、「公募委員にはこうした組織がないことから、活動の場を提供するなど配慮する必要がある」とあるが、「活動の場を提供するなどの配慮」というのはどういうことだったか人に説明しづらいので、説明をお願いします。</p>

名和田委員長：	二点目のほうが、直接的な質問なので「活動の場の提供」について事務局からお願いします。
事務局：	公募による委員を入れて、協議会を活性化する必要性については委員会で議論してきた。その際、団体推薦の方は母体団体があり、戻って団体として活動できるが公募委員の方は、戻る団体がないため、協議会の中で活動の場を提供していくことが必要と思われる趣旨で記述した。
橋本委員：	今の公募委員だが、P12 の表中に「その他の団体に属さない個人など」とあるが、「公募」と補足しておいたほうが、分かりやすいのではないか。
名和田委員長：	「団体に属さない個人など」とは公募のことと考えてよろしいか。
事務局：	そのとおりである。
名和田委員長：	そうであるならば、「公募」と記述したほうが分かりやすいので記述をお願いします。
近藤委員：	今、一点気付いたが、P12 の表中にテーマ型の団体が入ってないように思えるが、いかがか。
名和田委員長：	その他のところに「NPO」や「市民活動団体」とあり、これらがそうである。 公募について、他の自治体の例をみると、確かに活動の場がないため、総会や役員会の場での発言も地域の実情を踏まえないものになりがちだと指摘されることがある。
下田委員：	P11 に組織構成例があるが、この構成例や P12 の参加が想定される団体等の例がこのまま具現化された場合、例えば漁業協同組合、農業協同組合、商店会、企業など産業系はどの部会に入るのか、お考えがあればお願いしたい。
事務局：	特にどこが相応しいとは考えていない。まず、地域住民の全ての方、地域の団体全てが包括される協議会には、様々な団体が入ってくる。それぞれの地域で、特性として漁業があるところは漁業の団体を入れた方がよいとか、商店街のあるところは商店会を入れた方がよいとか、地域特性にあった団体が入ってくると考えている。
下田委員：	その地域で考えれば良いということか。
事務局：	そのとおりである。
名和田委員長：	組織構成例ということで、あくまでも例ということである。その意味では、組織構成例という文字が小さいかもしれないので、表題をやや大きめにしたほうが良い。 近藤委員が提示された一番目の問題だが、担い手の問題に

	<p>ついて、違和感なく読めるということによろしいか。この報告書の最初の方に書いてあるように、人材育成が大きな柱となっている。P16 を中心に、担い手については十分記述があるということによろしいか。</p> <p>ほかにいかがか。</p>
橋本委員：	<p>報告書の作成に関して、事務局に相当の力を借りたので名簿に事務局も載せたほうが良いのではないか。我々と一緒に苦労を共にし、また、責任もあるので載せるべきだと思う。</p> <p>あくまでも意見としてなので、あとは行政で判断していただきたい。</p>
名和田委員長：	<p>委員の気持ちとしては、事務局も載せて欲しいということであとは行政で判断いただきたい。</p> <p>修正箇所等については、委員長である私に一任していただき、これをもって最終報告書としてよろしいか。</p>
	<p><一同、承認></p>
名和田委員長：	<p>私の最後の願いだが、ぜひとも検討委員会に加わった感想をいただければと思う。</p>
金井委員：	<p>最終報告書ということで、かなり踏み込んだ部分まで書いてあると思っている。検討過程で、どうして公平性や透明性についての記述が無いのだろうと思ったりしたが、最終的にはその辺も全て網羅され、踏み込んだ報告書に仕上がっていると思う。</p> <p>ぜひこの報告書が具体的に地域に理解され、各地域が活性化するような仕組みづくりを進めていただけたらと思う。</p>
下田委員：	<p>本当に頑張ってきたという想いである。しかし、再三言ってきたが、この報告書が出来て終わりではなく、これからが始まりである。この報告書をどのように地域の中で活かし、土台としていくかだが、実際に行くと様々な問題が出てくると思う。そのような状況になったら、またこのような集まりをつくって検討するのも一つの手だと考える。</p>
酒匂委員：	<p>当初、このコミュニティ検討委員会は何を検討するのかという思いがあった。ご存知のとおり、ケアタウン構想があり、地域の福祉活動計画もある。この中で、これが屋上屋を架すことにならなければ良いと感じていた。</p> <p>拠点についての関心があり、コミュニティやケアタウン構想の中で、皆が集まれる拠点をつくっていきたいというのが私の願いであった。お陰さまで、事務局や拠点について報告書に盛り込むことができ、あとはこれがうまく機能していけ</p>

	<p>たら良いと思う。</p> <p>私はケアタウン構想の検討委員も拝命していたが、ケアタウンは非常に短期間で報告書を仕上げたが、この地域コミュニティ検討委員会ほど、回数を重ねて検討した検討委員会は初めてであった。それだけに良い報告書に仕上がっていると思う。</p>
近藤委員：	<p>市民公募として参加させていただき、団体を背負っていない気軽さで、何でも自由に発言できる強みがあったので、それを最後まで突き通せたと思っている。この検討委員会に加わってからは、深く考えることが多くなり大変勉強になった。関わっていただいた方に、感謝申し上げます。</p> <p>時の流れと共に人の考え方も徐々に変わっていくもので、この委員会を始めた頃と、今と、「地域コミュニティ」という言葉や地域内のつながりに関して、地域別計画の策定などがあったためか、意識が高まっていると感じる。やはりこういったことを続けて色々な手を打っていくことが必要だと感じた。</p>
橋本委員：	<p>我々が検討した内容以上に、地域の中では様々な問題が起きている。それらを解決するひとつの手段となれば良いと思う。先ほどから皆さんが言われているとおり、本日が終わりではなく、スタートだと感じている。そういった意味で、地域が一丸となり、小田原に住んで良かったと思えるようにしたい。そのためには、小田原に住む人々がその気にならなければならない、この報告書が一つの考え方のまとめだと思うので、今後はまちづくりの主体となって進めていきたいと思う。</p> <p>つくって安心するのではなく、我々もつくった以上、一緒になって見届けていきたい。</p>
菰山委員：	<p>私は小田原市青少年健全育成連絡協議会の副会長という立場で参加したが、この3月に退任し、現在は防犯指導員として防犯活動を行っている。</p> <p>当初、様々な組織の課題などがバラバラに出てきたものが、活発な意見を出し合って検討する中で、このようにまとめることが出来た。</p> <p>橋本委員も仰ったとおり、出来上がったものをフォローアップして、最後の確認まで見届ける責務は、我々にはあるであろう。地域で活動している間は、進捗状況を可能な限りみていきたい。</p>
田村委員：	<p>市P連を5月に退任し、今は東富水地区の育成会会長を行</p>

	<p>っている。このような役をやると、今度は自治会の役員などの声が掛かり、そうやって人と人とで繋がっていくのだと感じている。市P連にこの報告書を紹介するとき、どうやろうかと悩んでいた。これについては、地域コミュニティというキーワードを中心に行っていこうと考えている。</p> <p>今までは市P連会長といいながら小学校のPTA会長も兼ねていたので、小学生の目線で物事を考えがちだった。しかし、現在は育成会のほうで問題になっている中学生や高校生の非行問題を身近に感じている。このような問題にも地域コミュニティが必要となってくると感じており、どう活かしていこうか考えている最中である。</p>
鈴木委員：	<p>私は市民公募で参加させていただいたが、実は、団体推薦の委員と市民公募の委員には意気込みの差があると思い込んでいた。この委員会に参加して、そのようなことは全く要らぬ心配というか、本当に熱心に小田原のことを考えて活動していることを改めて勉強させてもらった。</p> <p>また、庁内プロジェクトスタッフとも一緒に議論できたことも良かった。</p> <p>先ほど、下田委員の発言にもあったが、これがゴールでなくスタートなので、私はこの委員会の経験を活かし、例えば地域運営協議会の伝道師やつなぎ役になり、地域の方に説明できるようになりたいと思う。そのような役割があるなら、それは自分が担っていくべきことだと感じている。</p>
名和田委員長：	<p>石川副委員長は最後ということで、庁内プロジェクトも一言どうか。</p>
杉山リーダー：	<p>個人的にはPTAや学校を中心とした活動を行っており、この報告書にある原型のようなものが重要だと感じていた。</p> <p>名和田委員長の御指導のもと、こういう検討委員会で皆さんからの御意見をいただき、最終的に小田原市の政策として提案いただけたところまで来たことを、非常に感慨深く思う。</p> <p>また、実際に地域で活動されている委員の話をもっと具体的に聴くことができ、改めて地域コミュニティの必要性を深く理解できたと思う。皆さんの発言にもあったが、これがスタートなので、委員さんからいただいた案を地域で一つひとつ根づかせていくことを行っていきたい。</p>
関メンバー：	<p>皆さんの意見を聞いて、大変勉強させていただいた。</p> <p>皆さんがつくった成果を行政としてしっかり受け止めたと思う。</p>

	<p>私の心に残っているのは、下田委員が言われた、外国の例である。例の国では、生活の中でのちょっとした助け合いが、ごく自然に行われており、そのような社会をつくるためには、個人のモラルが向上していくのが最終的な目標ではないかという内容で、まったくそのとおりだと感じた。</p> <p>今回、委員さんからの成果を行政もしっかり遂行していくが、最終的な目標としてはそういったところにあるのではないかと思った。</p>
村田メンバー：	<p>委員会が発足し、約2年になる。委員のみなさんとKJ法や分類作業を行ったのが懐かしいと感じる。</p> <p>普段の業務の中で市民と接するが、地域コミュニティについて改めて考える機会はなく、この2年近く関わりを持たせてもらって、改めて「コミュニティとはなんだろう」など一から考えることができ、非常に勉強になった。</p> <p>この報告書がこれからの様々な成果につながっていくと思うが、私は現在組長をやっており、今までは皆勤賞ということで少なくともここに成果が出ている。やはり、意識が地域へ向くようになった。</p>
一寸木メンバー：	<p>仕事で交通安全や防犯の仕事に携わっているが、小田原市内は振り込め詐欺の被害が多い。振り込め詐欺は、家族との関係や隣近所との関係が希薄になってきていることが、大きな要因の一つとして考えられる。8月には自治会費の徴収を装った詐欺も発生している。</p> <p>今、下府中地区で高齢者が集まるふれあいサロンがあり、そこにお邪魔して防犯と交通安全の話をさせていただいている。まさに福祉と防犯の連携が行われている。</p> <p>防犯パトロールにしても、行政だけでは全てできないので、地域の方に協力をいただいている。地域の方々と行政が手を取り合うことで、良い地域ができると思う。</p>
藤澤メンバー：	<p>庁内プロジェクトに参加でき、非常にありがたかったというのが第一の感想である。</p> <p>2000年代の前半、行革の仕事をしており、都市センターで「Neighborhood Government」などと書かれていたのを記憶している。地方分権について、どちらかといえば官官の分権が先行してきた中で、都市内分権、市のあり方について非常に刺激的な言葉を聞いた記憶がある。当時は、行革セクションということで事業評価やマネジメントに関心があり、個人的には先に送っていたというか、黙認してしまっていたが、こ</p>

	<p>の委員会に関わらせていただくことで、非常に勉強になった。</p> <p>私は現在、環境分野にいますので、いわゆるテーマコミュニティとの関わりが深い。こういったテーマコミュニティと地域コミュニティがうまく連携することが出来るか非常に気になるところである。その中、委員の皆さんはテーマコミュニティとの連携が大事だという意見が出たことを非常に嬉しく思う。</p>
尾沢メンバー：	<p>この4月から参加させていただいている。検討委員会に参加させていただき、地域コミュニティの重要性について学ばせていただき、また、難しさも感じた。自分の仕事では、子どもの居場所づくりをテーマにしており、地域が主体になって子どもの居場所をつくっていく事業だが、現段階では正直、先が見えない状態である。そういった中で、この検討委員会で、地域コミュニティを進めていくには、やはりすごい難しさがあると再認識させていただいた。</p>
湯川サブリーダー：	<p>私は数名のメンバーと一緒に、最初からこの検討委員会に携わっており、中間報告時にそもそもコミュニティとはなんなのかということ、委員さんと平場で話し合ってみてまとめた。</p> <p>昨年から今年にかけては、その平場の議論をどのようにシステムとして構築していくかということを試行錯誤しながら議論し、本日の報告書の形にまとめたことを感慨深く思う。私の業務は地域福祉ということで、ケアタウン構想に携わった。高度成長を経験し、核家族化が進み、もう昔には戻れない中でどのようにしてコミュニティを再生していくかを起点として、議論をしてきたと考えている。報告書の中にそれぞれのヒントはちりばめられていると思うが、どう具現化していくかが使命であり、私は地域福祉という切り口で地域へ入っていくが、結果として防犯や教育、防災につながり、基本的には同じということで最終的には地域コミュニティ全体の話になると考えている。</p>
諸星事務局：	<p>長いこと、議論いただきありがとうございます。事務局として、まずは感謝申し上げます。2年間にわたり、14回の検討委員会、それ以外にも私どもの準備不足から勉強会などで、自主的に無報酬で集まっていたことが数々ありましたこと、お詫びと共にお礼を申し上げます。</p> <p>実際、市の職員として私がコミュニティについて最初に考えたのが25年前であった。マロニエなどの施設を検討するにあたり、生涯学習施設という以上にコミュニティのあり方と</p>

はどうあるべきかを議論したのが始まりではなかったかと思う。その議論結果はマロニエなどの施設内容には反映されたが、本日ここで委員さんに議論いただいたコミュニティの内容についての議論にまでは届かなかった。それは届かなかったのではなく、当時、小田原市は自治会の力が非常に強力であり、コミュニティの中での近所づきあいの問題や高齢化が進んできたが、そういった福祉の問題なども地域で解決していくようなところには至ってなかった。当時は、自治会を中心とした地域にお預けしている部分で、かなり行政は安心してきていたところが多くあったことを思い出す。25年経った今、非常に深刻な問題として、新聞報道されるような所在不明の高齢者などの問題があるが、小田原は幸いそのような事態には陥っていない。しかし、青少年育成、高齢者や障がい者など委員からお話しいただいた問題について将来を考えると、決して安心してはられない。それゆえ、これだけ真剣に議論が出来たと思う。

委員のみなさんが仰っているとおり、これからがスタートです。具体的な活動がモデル事業として富水地区で始まりまし、ケアタウン、スクールコミュニティなどのモデルも動き出している。あるいは、地域運営協議会というものを将来的に見据えて組織化に動き出している大窪地区や酒匂・小八幡地区もある。着実に地域の皆さんも意識を持って動き始めているのを、ひしひしと感じてるので、行政が改めてしっかりやっていかなければならないと感じている。

二言目には、地域の団体に横串を刺してと言いながら、行政になかなか横串が刺せない。本当に不徳をお詫びしつつ、皆さんからいただいたものを励みに、これからやっていきたいと思う。

山崎事務局：

まずは私もお詫びだが、事務局に関して、委員会設立当初の者がいない。人事異動により、最後までお付き合いできなかったこと、また、平成21年度以降はモデル事業の実施を通じて、そこから見受けられる事柄を検討委員会で報告し、報告書に取りまとめていく命題があったが、事務局から情報が提供できる状態でのモデル事業の実施ができなかったこと、この2点については本当に申し訳なかったと思う。

ただそれによって、みなさんが地域別計画という別のステージを経験されたということ、従前のそれぞれの地域の中での活動、市民活動を通しての経験、それに加え新しい取組

	<p>として見えてきたことがこの検討委員会の中で議論をいただき、報告書に様々な形で盛り込まれたことは非常に嬉しいことだと思う。</p> <p>感想になるが、事務局として会議録を作成して、それを報告書の文言にして書いていくという作業を行いながら、非常に困ったことは、皆さんの言葉を報告書のスタイルに変換することが困難であった。これは、私たち事務局のテクニカルな部分の不足もあるが、発言の一つひとつが非常に重いものとして、私たちの心の中に届いた。可能なら、発言されたそのままの言葉で報告書を取りまとめたいという思いにも駆られたが、最終的には地域でこれから活動される方々に活用していただくための報告書という視点から整理をせざるを得ないことで、お手元にある報告書の形になった。</p> <p>新しいスタートを切っていくために、報告書でまとめ上げていただいた委員の皆さんの思いが、地域の思いと重なっていく姿を目指すことを、今後の仕事にさせていただきたい。</p>
<p>中津川事務局：</p>	<p>この4月に異動してきたが、この前は生活保護に7年間携わっていた。平成15年に8%だった生活保護受給率が今は12.3%となっており、1%を超えた。同じような傾向として、高齢者の孤独死なども増えていくと思いき、地域コミュニティの崩壊に一因があるのではないかと考えている。</p> <p>これから我々もこの報告書を手に取り、業務を行っていききたい。</p>
<p>府川事務局：</p>	<p>報告書が形になりましたことをお礼申し上げます。</p> <p>最初にこの委員会に参加したとき、皆さんは様々な期待を持たれながらこの委員会に参加されたと思いき、その期待が結果としてどのようなになったか少し心配になったりもするが、委員の一部の方とお話させていただいた時に語った夢とは少し違う形で報告書がまとまって、若干だが複雑な思いがしている。</p> <p>これからがスタートと仰っていたが、地域政策課の何名かは地域を担当する職員として活動する。私も隣にいる藤井もいくつかの地域を担当しており、地域のみなさんとお話をさせていただいている。</p> <p>報告書の内容を具現化するには、相当の努力が必要であり、それに向けて頑張らなきゃいけないのかなと決意を新たにしました。</p> <p>私は小田原市内に住んでおり、地域活動もさせていただい</p>

	<p>ているが、そういった中で担い手不足は日々、痛感している。報告書でも担い手不足の解消ということに触れているが、実はなかなか大変なことである。なんとか皆さんのお力を借りながら進めさせていただければと思う。</p>
<p>藤井事務局：</p>	<p>私が市職員として初めて地域と関わりを持ったのは、昨年度の地域別計画の策定時である。そのときは、正直「地域コミュニティとは」とか全く考える余裕もなく、地域へ入って行って皆さんと話し合いながら一つひとつ計画をつくり上げていった。この4月に地域政策課へ異動し、コミュニティ検討委員会の事務局を行うことで初めて地域コミュニティというものを考える機会をいただいた。今後はまた、地域運営協議会設立支援のために、地域へお邪魔するが、昨年度に一回地域へ入り、この事務局で地域コミュニティの本質的な部分を勉強させていただき、またこれから地域へ入っていくので、今後ともよろしく願います。</p>
<p>石川副委員長：</p>	<p>最初はお詫びの言葉から入る。私はこの検討委員会の副委員長という器ではない。たまたま敬老精神で、一番年長ということで副委員長になったと思っている。</p> <p>社会福祉協議会や民生主任児童委員協議会などはあらゆる会合で顔合わせをしているので、大体分かっているが、公募の方に関しては、お互いが初対面であり、年齢も親子ほど違う。どういう議論をしていくか、当初は不安も正直あった。中間報告に至るまでは、やむを得ないことだが、私も含めてまず自分の所属している団体のことを中心に考えてしまい、2年間でまとまるかが心配であった。しかし、さすが委員になられる方にはそれぞれ能力を発揮していただき、特に公募の方は自ら応募されるだけあって、しっかりした考えを持っており、また、若い年齢の立場からフレッシュな意見がどんどん出てきたことは、我々にとっても大いなる刺激になった。そして、名和田委員長は専門的な言葉を用いず、我々にもわかりやすいように、非常にソフトで円滑にまとめていただき、そこに私も頼ってしまったところもある。</p> <p>もう一つありがたかったのは、庁内プロジェクトである。私も市の委員会には数多く出席しているが、ほとんどが縦割りの委員会である。ここで初めて、全庁の縮小版のような形で各分野からプロジェクトとして参加していただき、一同で共通した内容についての意見交換が出来たことはプラスになったと思う。また、事務局も大変忙しい中、逐一気を使って</p>

	<p>立派にまとめ上げていただき、全てに感謝したいと思う。</p> <p>私と名和田委員長、金井委員は来年からスタートする総合計画審議会の委員になっている。</p> <p>それから、私は連合会長になった平成 13 年から、忙しいとは言いつつ、議会の一般質問は無欠席で傍聴している。最近、大分コミュニティのことも議題に出てきており、それに対し、市長も非常に興味を持っているという答弁もあった。</p> <p>総合計画審議会については、各会派から議員が出ており、いろいろな意見を言う。それでも、名和田委員長が説明されると皆さん静まり、もっともだと納得している様子で、非常に心強く思っている。</p> <p>私も高齢で、これから先どれくらい地域で頑張れるかわからないが、この検討委員会の仲間に入れていただいたことを契機とし、これからも忠実に、また幅広く連携をとりながら、地域住民の安心安全と住みよい地域にしていきたいと考えている。</p> <p>市長に報告書を提出して形上はこの委員会は解散するが、せっかくこういった場で知り合えた仲間なので、今後も何らかの機会に集まり、「現状はずいぶん違っているね」などでもいいし、話し合えたら良いと考えている。</p>
<p>名和田委員長：</p>	<p>石川副委員長の発言で、すっかりまとまってしまった感じがしますが、感想を述べたいと思う。</p> <p>先ほど事務局から紹介がありましたように、この報告書の「はじめに」は委員長名で書かせていただくことになり、整理された背景などはそちらに書くので、この場では現在頭の中にあることを話させていただく。</p> <p>一番感じるのは、この委員会の委員の質の高さである。大概、全市的に意義のある委員会にはその市の代表的な方が委員になられ、それなりの水準の議論が行われているが、なかなか、全ての方からの発言とか、議論に集中してその全てを理解し、それに対して自分の意見を発言するようにはならないことが多い。この委員会は規模も適切であったし、委員の質も高かったので非常に内容の濃い議論も毎回できたと思う。特に前回会議は非常に充実した議論であったと思っている。</p> <p>小田原市とは、政策総合研究所という市内シンクタンクがあり、その時に 3 年ほど関わらせていただいた。その後、また声を掛けていただき、しかも新しいコミュニティの仕組み</p>

	<p>の立ち上がりに興味をもっていた時期だったので、引き受けた。この検討委員会には、気合を入れて取り組んだつもりであり、報告書がまとまって本当に感無量である。</p> <p>また、先ほど石川副委員長も仰いましたが、何らかの形で小田原について話し合う機会が持てればいいなと思っている。</p> <p>最後に議題で「その他」とあるが、市長報告について事務局から願います。</p>
--	---

議題 2 その他

<p>事務局：</p>	<p>報告書の市長報告についてだが、10月21日（木）の午後3時30分から午後5時までの一時間半を予定している。最後の報告の機会になるので、都合のつく限りお願いしたい。</p> <p>その日は、慰霊祭と重なっているので、詳細な時間については追って連絡する。</p>
	<p>市長報告会 平成 21 年 10 月 21 日（木） 時間の詳細は追って連絡。</p>